

かけがえのない地球を次代に残すため まずは各家庭などで「ゴミ減量」を

**豊岡市はごみ減量20%
大作戦を展開中です**

市内で1年間に発生するごみ量は、平成17年度実績で約36,000トンです。写真は、一昨年の台風23号で発生した災害廃棄物を豊岡中核工業団地に一時集積したもので



▲台風23号襲来後、豊岡中核工業団地に山積みされた災害廃棄物は23,000トン。市内で発生する年間のごみ量はこの約1.6倍にもおよび

すが、これですら23,000トンと1年間のごみ量に及びません。いかに36,000トンという量が多いかが分かると思います。

市では、平成12年度（基準年度）のごみ量42,800トンに対し、10年間に清掃センターで処理するごみ量を20%（8,500トン）削減することを目標としてごみ減量に取り組んでいます。平成17年度末の実績では、家庭ごとと事業ごみを合わせて約15%減量することができました。このことは、市民の皆さんの協力の賜物です。平成22年度に20%削減を達成するため、さらなる皆さんの協力をお願いします。

なぜごみ減量が必要なの？

では、なぜごみ減量が必要なのかを考えてみましょう。

①地球の環境を守るため

ごみを処理するためには、ごみの運搬や焼却などで石油系のエネルギーをたくさん使います。地球の温暖化や酸性雨の原因は、石油などを燃やして出る二酸化炭素です。エネルギーの節約と環境保護のためにも、ごみを減らす必要があるのです。

②地球の資源を守るため

私たちが消費している天然資源には限りがあります。燃料やプラスチック製品の原料になっていく石油は、このまま使い続けると約40年でなくなると言われています。また、紙類の大量消費は森林破壊を進行させ、災害や異常気象の原因にもなっています。

一見豊かに見える大量消費社会は、地球の資源を枯渇させ、災害等で私たちの生活を脅かしていることになりません。

③埋立て処分場がなくなる

ごみを燃やしてできた焼却灰や、リサイクルできなかったごみは、埋立て処分されませんが、狭い日本で新しい処分場を作るのはとても難しいのが現状です。

リサイクルには 大きな落とし穴が

ごみ問題を語るとき、私たちは「リサイクル」を中心に考えてしまいがちですが、忘れてならないのは、ごみの発生を抑制（ごみ減量）することです。そして、やむを得ず発生したごみをリサイクルに回す。リサイクルにばかり目を奪われ、ごみの発生抑制を怠ると大きな落とし穴にはまってしまうのです。

リサイクル自体は大切ですが、アルミ缶等、その加工が容易なものを除き、リサイクルには運搬や加工などに大きな経費とエネルギーが必要で、リサイクル量も少ないに越したことはありません。大

40億年の奇跡を 未来につなぐ

地球温暖化による危機は、何も遠い将来のことではありません。現に世界中で異常気象が続き、災害が頻発しています。そしてそれらの原因を作ったのが、他ならぬ私たち人間だと言われています。

地球を取り巻く大気やオゾン層は、約40億年かかって作り出された宇宙の奇跡です。私たちは地球に住まわせてもらっているという謙虚さを持ち、これらを未来に引き継いでいかなければなりません。小さなことかもしれませんが、まずは各家庭などでごみ減量に取り組みましょう。



▽問合せ 生活環境課環境衛生係